

## 藤原宮東南官衙地区の調査（飛鳥藤原第118次）

2001年10月末から2002年2月までおこなった、高所寺池という溜池の堤防改修工事にもなう調査です。池の東・北・西の三面を、総延長200m、およそ2000m<sup>2</sup>にわたって発掘しました。調査区は、藤原宮の南面大垣と内外の濠を含み、「東南官衙地区」とよんでいる区域にあたります。

調査にはいつてもなく、大垣とその南北に濠がみつかりました。藤原宮の大垣は、掘立柱を土壁でつなぎ、瓦葺きの屋根をのせた構造です。ただ、大垣と内濠はほぼ想定位置で発見されたのですが、外濠は想定位置よりも7m大垣寄りにありました。

調査区には、宮内先行条坊とよばれる藤原京の街路の一つ、東二坊坊間路がおっています。普通、藤原宮の施設はこの先行条坊の側溝を埋め立てて造営されているのですが、南面の外濠は側溝と一時期共存しており、側溝を流れる水が外濠に注ぎ込むように掘り直されていました。まず、排水体系をつくり、そののち側溝をうめて大垣の柱をたてたり内濠を掘削していたのです。外濠の位置だけが想定位置とずれた理由も、このあたりにありそうです。

大垣の北側、つまり宮の内側では、役所の建物や



藤原宮南面の外濠（西から）

それを囲んでいた塀がみつかりました。平城宮では「式部省」が位置する場所ですが、藤原宮ではどんな役所があったのか、今後、出土した遺物を整理しながら考えてみたいと思います。

また、このあたりは、弥生時代以降には人が住みつけた形跡があり、とくに古墳時代の5世紀以降になると生活の痕跡がよく残っています。出土した土器に韓半島のものに似た「韓式土器」があったので、渡来人のムラだったのかもしれない。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)